

A decorative graphic consisting of three blue circles of varying sizes, each with a lighter blue outer ring and a darker blue inner circle. These circles are connected by thin blue lines that form a triangular shape. The circles are positioned in the upper right and lower right areas of the slide, with the largest one in the bottom right corner.

八千代市の財政状況と再建について

～「成長タウン八千代」の街づくりを実現に向けて～

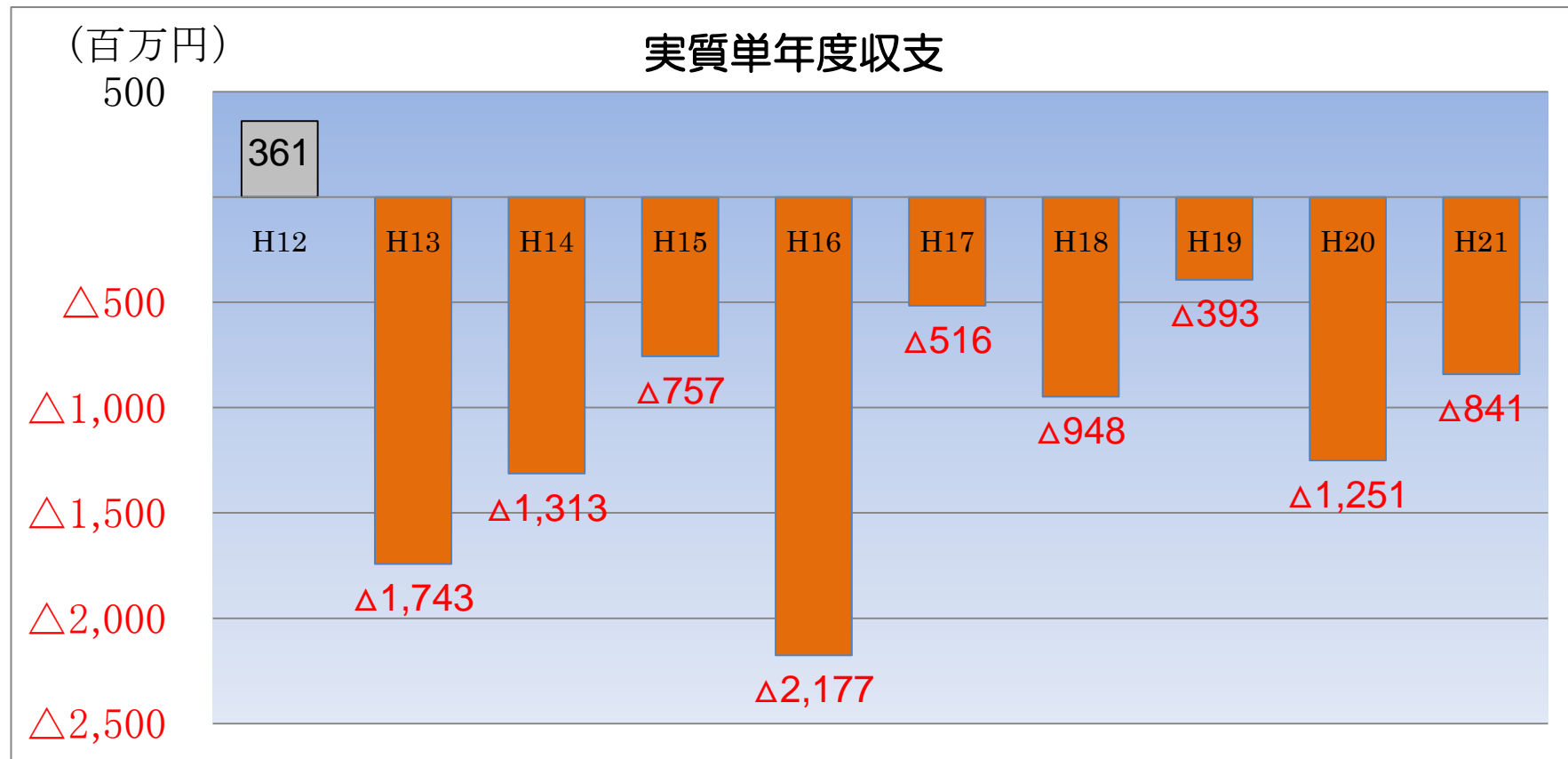
千葉県議会議員 西田 ゆずる

2010/10/17

八千代市の財政状況

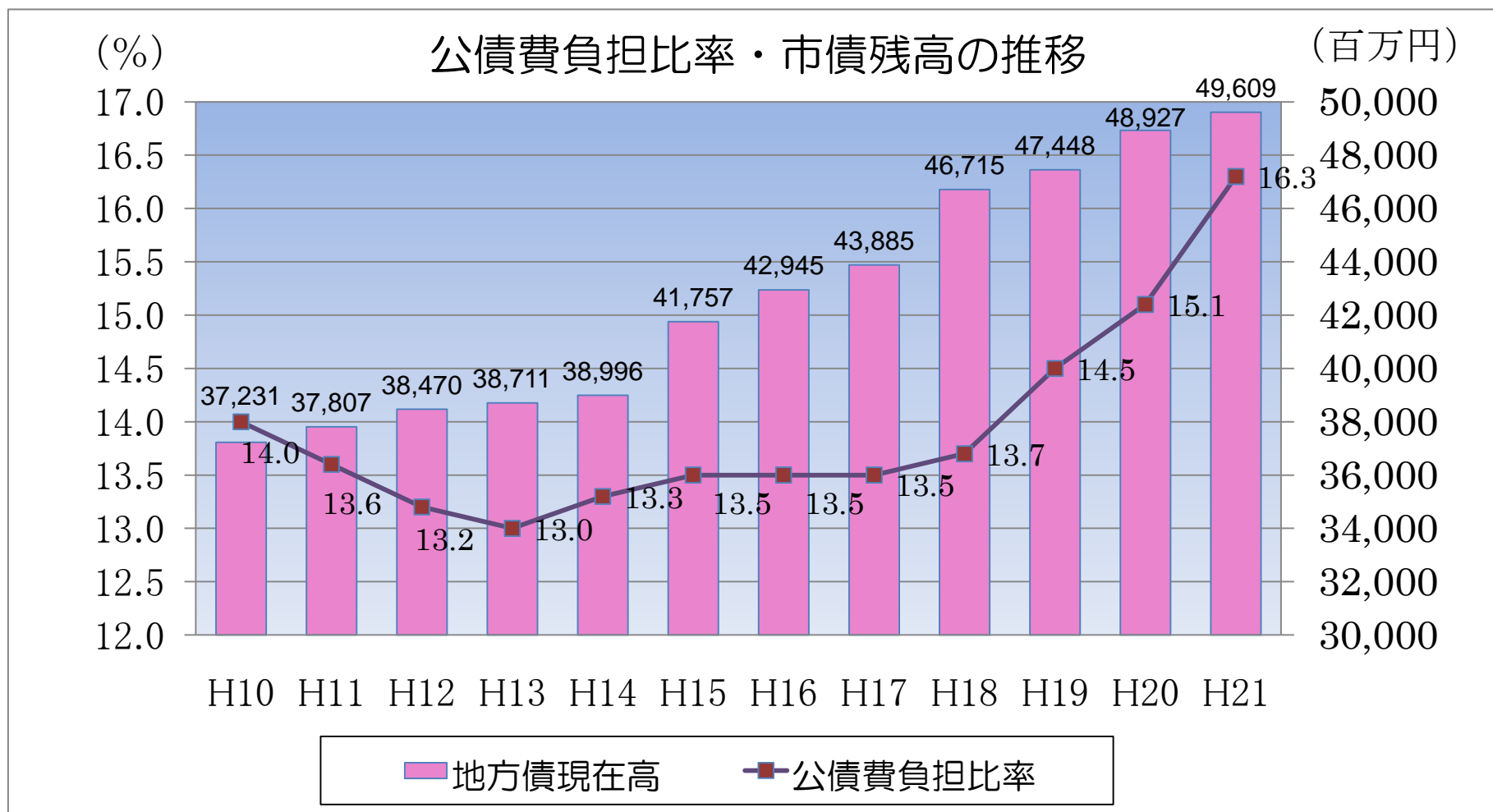
①赤字体質の財政運営

〇市の実質的な収支が黒字か赤字かを示す実質単年度収支は、平成 13 年度決算から 9 年連続で赤字です。これは、積立金を崩しながらの不健全な財政運営となっています。



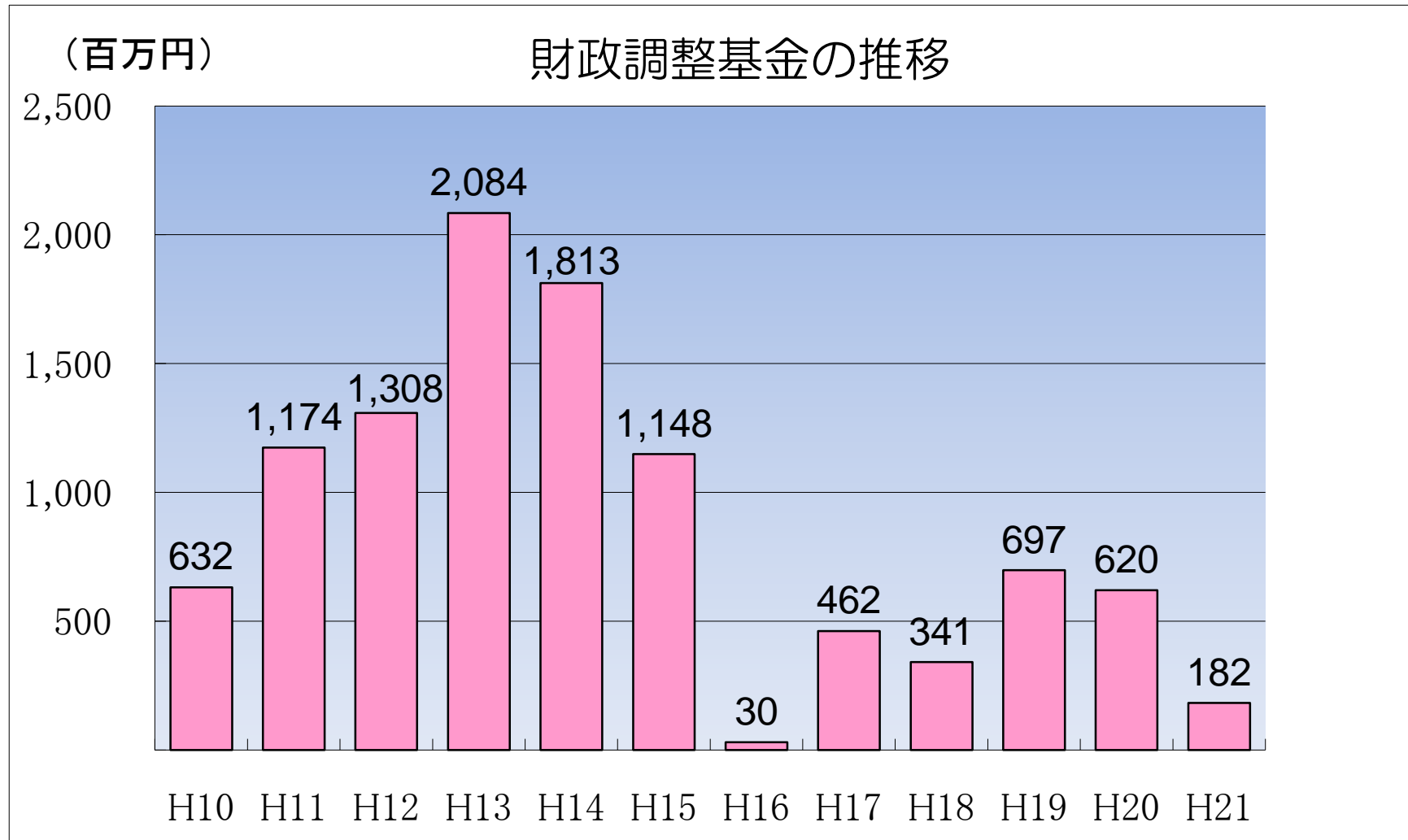
②増え続ける借金残高

〇市の借金である市債残高は、毎年増え続けています。また、公債費負担比率（市が自由に使える予算に占める借金返済の割合）は、警戒ラインの15%を超えてしまっています。



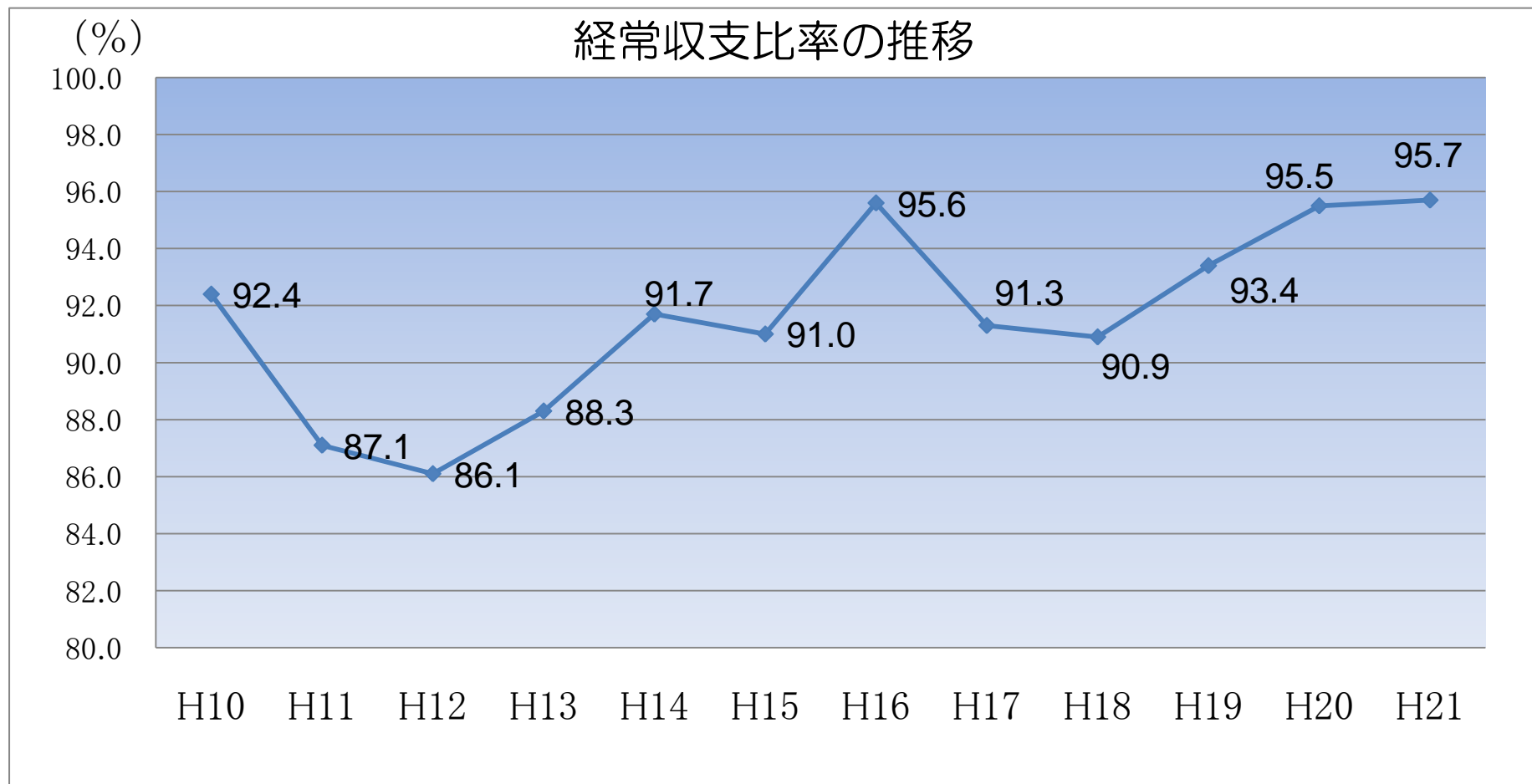
③枯渇寸前の預金残高

〇市が自由に使える財源（財政調整基金）は、枯渇寸前です。この財源が無いと、万が一の支出（緊急な大規模修繕など）にも対応できません。八千代市の適正規模は、約 30 億円です。



④硬直化した財政運営

○毎年（経常）の収入に占める毎年（経常）の支出の割合である経常収支比率は、平成12年度と比べると約10ポイントも悪化しています。75～80%程度が妥当と考えられており、経常収支比率の悪化は、政策（臨時）的施策ができない財政の硬直化を意味します。



財政再建に向けて

① 歳入の確保

○市税、国民健康保険料、及び保育園保育料等の一元管理などによる各種債権回収の強化

⇒現在の「各滞納債権＝別のセクション」での業務形態を改め、債権回収の効率化と徴収率の向上に努めます。

○未利用・低利用財産の売却と民間への貸付を含めた効率的な活用

⇒遊んでいる土地・建物を一掃し、無駄の無い資産運用に努めます。

○使用料・手数料等の設定基準の作成

⇒使用料・手数料等の受益者負担について適正な金額かどうかの検証を行い、使用料・手数料等の設定基準を作成します。

② 歳出の見直し

○ハコモノ建設などの大規模公共事業を大幅な見直し

⇒将来への負担ともなるハコモノ建設については、本当に必要な事業かどうかを再度見直し、必要な場合でも、建設費や維持費については、入札制度の改革・PFI（民間資金等の活用）・指定管理者制度などの導入により、コストの削減に努めます。なお、危険な道路・橋梁や老朽化した公共施設については、早急に改修を進めます。

○市長はじめ特別職の報酬の削減と一般職員数・給与の適正化

⇒市民への行政サービスを維持するために、特別職と一般職の方々にも、報酬の削減や職員数・各種手当の見直しを含めた給与の適正化に協力してもらいます。

○行政評価と事業仕分けを活用した事務事業の無駄の削減

⇒既存の行政評価と新たに市民の声を取り入れた事業仕分けを実施・活用しながら、事務事業（市が実施する具体的な行政サービスや事業）の無駄を削減します。

③ 将来への備え

○将来へのツケとなる借金（市債）残高の圧縮

⇒右上がりに増え続ける借金（市債）残高について、将来へのツケとなることを考慮しながら、再度、借金の対象となる事業内容を精査し、借金残高の圧縮に努めます。

○財政規模に見合った適正な積立金（財政調整基金）の確保

⇒自由に使える積立金である財政調整基金を確保し、いざという時の支出に備えます。

○公共施設の有効活用や維持補修のためのマネジメント計画の作成

⇒今後の公共施設の在り方を検討するために、マネジメント計画書を作成します。

○第三セクターの整理・解散を含めた抜本的な改革

⇒本市が出資し設立した(財)八千代市開発協会（市が保証する負債-約 24 億）等について、早期の解散を含めた抜本的な改革に取り組みます。

新川周辺地区都市再生整備計画（再生計画）の概要

◇再生計画の概要

（単位：百万円）

事業内容	事業費 (100%)	事業費の財源		
		国庫 (交付金) 【30%】	起債 (市の借金) 【52.5%】	一般財源 (借金の頭金) 【17.5%】
中央図書館	2,099	2130	1,102	367
市民ギャラリー	776		408	135
総合グラウンド	1,050		551	184
公園整備	872		458	153
道路・橋梁	1,629		855	285
やちよふれあい農業の郷	557		292	98
その他	118		62	21
計	7,101		2,130	3,728

※その他…歩行支援施設、在住外国人交流支援事業、数値指標分析

再生計画の問題点

①市の借金と持出し分

○建設・整備段階での新たな市の借金と持出し分は、約50億円。

⇒将来の他分野（福祉サービス、老朽化施設修繕など）における行政サービスの低下となる！

②ランニングコスト

○1年間のランニングコスト（維持補修費）は、3億円超。

⇒ハコモノ建設の是非は、建設後のランニングコストを支出していけるのかが重要！

③既存施設の老朽化

○老朽化による既存施設の改修が、緊急の課題。

⇒既存の小中学校・保育園・市民プール・図書館・障害者福祉施設等の改修が後回しに！

再生計画の見直し案

①インフラ資産の整備

⇒再生計画な中でも、道路・橋梁などの生活に欠かせないインフラ資産については、早急に整備を進めていきます。

②ハコモノ建設の見直し

⇒中央図書館、市民ギャラリー、総合グラウンド、やちよふれあい農業の郷（観光交流センター等）の建設については、徹底的に見直します。

③老朽化施設の改修など

⇒ハコモノ建設の中止により、将来発生したであろう費用（建設費、ランニングコスト）の一部については、危険な道路・橋梁の整備、老朽化施設の改修、福祉サービスなどの財源として活用します。